

グリーンバンクサポータークラブ会報

第81号

2021年2月15日発行 会員数61



1.山本佐代子さん



2.吉澤敏子さん



3.藤田なみ枝さん



4.只井きみさん

コロナから何を学ぶのか

サポータークラブの皆様には日頃からグリーンバンクの活動にご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。さて、昨年は思いもよらない新型コロナウイルス感染症の拡大により、4月16日には全国緊急事態宣言が発令され予定していた会議や研修、事業などが延期や中止を余儀なくされ、職場においても、新たに在宅勤務制度、時差勤務制度の導入など様々な工夫や判断をすることになりました。例えば基幹事業に成長した花育教室では、県内の保育士さんを対象に研修会を開催するのですが、今回は各園で視聴できる研修用動画をホームページにアップすることで、コロナ感染防止と遠方園の参加を促すことができ、その結果193の保育園や幼稚園で7,000人の園児が花育教室に参加することが出来ました。

また自粛生活を見据え子どもの読み聞かせ用にえほんのじかん「イライラくんとまほうのタネ」をアップしたりグリーンバンクの事業紹介の動画もアップしました。地元で活躍する卒業生も多い花壇づくり研修会は残念ながら中止となりましたが、現在花壇づくりのテキスト(冊子)と花の魅力についての動画を作成中です。若い世代にも関心を持ってもらえるような内容ですので、花を愛する仲間を増やすきっかけになればと思っています。コロナ禍の今こそ、誰もが「花を見て美しいと感じる心の豊かさ」を取り戻すとき、デジタルとアナログを併用しながら緑豊かな生活環境づくりを皆様と共に進めていきたいと思ひます。

公益財団法人静岡県グリーンバンク
専務理事 八木孝佳



5.植田行江さん



6.大石久雄さん



7.山田幸子さん



8.井村富枝さん



☆来年度はどんな活動にしましょうか☆

本年度は4回の会報誌を通じて、17名の会員の活動を紹介して参りました。如何だったでしょうか。取材に伺い話を聞けば聞くほどその地に足をおろした活躍に感銘を受けました。コロナ禍であり、花の少ない季節に取材に応じて下さった皆様に厚くお礼申し上げます。このような会報発行には、意外に経費が掛かります、印刷費・発送費などと取材に当たったの最小限の交通費を計上させて頂きました。今までは会費は主に研修旅行補助に使わせてもらっておりましたが、それに見合う価値があったと思って下さるようお願いしております。

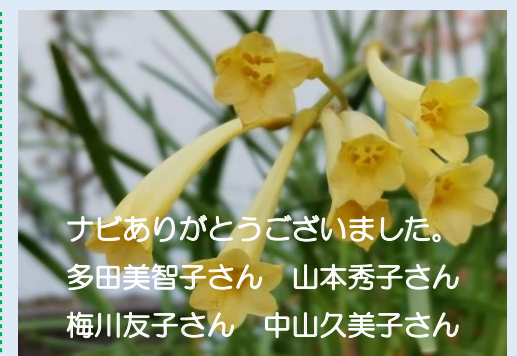
コロナの状況が分からないまま、令和3年度を迎える事になりそうです。例年4月に開いていた総会も、書面開催とせざるを得ないと判断しています。年に一度会員が顔を合わせる機会でもあるので残念です。研修旅行については、遠くへバスで出掛けるのではなく、近場でボランティアさんとも交流出来るような内容で、現地集合でどうかと考えております。また、会報誌で会員の活躍を伝える企画は、一年限りの予定でしたが、まだまだ紹介したい方や活動がありますので、継続してはどうかと検討しております。会員の繋がりを深め相互啓発という会の趣旨に添った活動を進めて参ります。会員の減少を危惧しております、研修仲間をお誘い下さい。また、こんな活動をしていますので取材に来て下さい、役員って楽しそう私もやりたいなど、皆様の声をお待ちしております。

サポータークラブ会長
(広報誌 カメラマン)
斎藤玉子



編集後記

81号でコロナ企画は終了と思って人数を欲張り1ページ3名掲載と考えていましたらみなさんの魅力を書ききれず1ページ2名掲載。初の6Pに。それでも伝えきれない!このパワーを結集したらすごいことできるのでは?と私の心はメラメラと燃えております!(笑)取材先にはいつも笑顔がありました。ありがとうございました。取材編集 中村道代



ナビありがとうございました。
多田美智子さん 山本秀子さん
梅川友子さん 中山久美子さん

1. 富士市 山本佐代子さん 「花の季節は家中花だらけです」



昔からお花は好きでした。家の前に畑や花壇ができるなど8年前にここに越してきました。リビングから全部見渡せるようになっていて毎日朝見て作業手順を考えたり。亡くなった主人の写真も庭が見えるように配置しています。一番好きな花はクリスマスローズです。木の下に咲くようにしてあまり花のない時期に春を知らせてくれます。

大きく育っていくのを見る、ドライフラワーにする、飾った花を見る。お庭

に花が咲き始めると家中、花だらけになるんですよ。花の楽しみ方はたくさんありますよね。友達から刺激を受けてガーデニングの技術を学んだり、種から育てることも楽しい。斎藤玉子さんの主催している“グローバルガーデン”にも参加させてもらって活動しています。いろいろな国から来た学生さんが喜んでくれるのが嬉しいです。



リビングの大きな窓から花壇と畑が一望でき、玄関にはドライフラワーがたくさん並んでいてとても素敵な空間を見せて頂きました。山本さんは毎日ラジオ体操に出かけて往復9000歩も歩くそう。登山も趣味で最近はお仲間と近隣の山に登るそうです。とても素敵な暮らしを聞かせて頂きました。

中村道代

2. 静岡市 吉澤敏子さん「咲いた花から種を採って芽が出て、また花が咲く」



愛犬ひめちゃんと吉澤さん

花はもう50年前から。菊から始めましたが家族に理解してもらえずに挫折。次に都忘れのような小さな花をやりました。家の前に有度山と沢があり近所の人たちの散歩コースになっています。そこにいろいろなアジサイを咲かせたり、種を箱に入れておいて欲しい方に差し上げたり。皆さんが喜んでくれるのが嬉しい。7年くらい前から有度山を愛する会に参加。また町内会の自治会館の雑草がすごいのが気になってこ

ちらも7年前から一人でそこに花壇をやり始めました。ブロックひとつひとつ運んだり重くて大変でしたが、2年前から6人参加してくれて7人になりました。それが嬉しくて感謝の気持ちを込めて皆さんに赤のエプロンと帽子につける日よけカバーを作りました。ミシンは長年仕事で鍛えているから出来ちゃうんですよ。私は、苗から必ず種を採ります。そしてその種を植えて、芽が出て、大きくなって花が咲く。その過程を見るのが好きだし大切にしたいと思っています。



吉澤さんお手製の赤いエプロンをつけて活動

花が好きで好きでたまらない、とにかく原点は其処にあって、友達に広がる、地域に広がる、笑顔が広がる、生きる力になる。園芸店で売っている花はとても綺麗、それを買うのは種を採ったり挿し木で増やしたいから、育てるのに喜びがある、それを花友に分けて喜んでもらう。愛犬ひめちゃんと共に毎日散歩しながら幸せを振りまく吉澤さんを見習いたいとつくづく思うのでした。

斎藤玉子

3. 牧之原市 藤田ふみ枝さん 「種から挿し木から～花は子供のようです」



40年以上前から花は好きです。最初はピオラとか購入したんですが、失敗しまして（笑）趣味の園芸とか見て勉強しながらやりました。一番好きな花は、縁側正面に咲く薔薇“ピエール・ド・ロンサール”です。花の中がピンクで回りが白くなっていてその表情が良いです。8年くらい前に小さい苗を買ってきて、虫がつけば殺虫して、伸びてくれば誘引して、手はかかりましたが大きく育ててくれました。主人が野菜私が花を育てて水がたくさん必要なので、井戸水を使い、エコで生ごみを使ったコンポストや野菜や草を重ねて堆肥にすることもやっています。4年前から牧之原花の会にも参加させてもらって先輩や、友人との花談議がとても面白く、楽しみながら活動しています。



藤田さんのお人柄のようなぼかぼかの縁側でお話をお聞きしました。ご主人の手掛ける畑は草一つなく畝が立派。たくさんの種類の菊がたくさん植わっていてその全てに特徴が書かれていてビックリ。大好きなピエール・ド・ロンサールの話をするときには目がキラキラ。薔薇の咲く時期にまた訪問させてもらいたいなと思いました。

中村道代

4. 吉田町 只井きみさん「花でいろいろな人と出会って話をして毎日楽しいです」



グリーンバンクの研修で徳原先生に学びそれが基礎。今でも感謝の思いです。吉田町花の会に参加、榛原病院、自彊小学校、オアシスストリート、図書館と活動しています。オアシスは大幡幹線に24区画あります。会員9名です。夏の水やりが大変ですが大体2区画に一つ蛇口とホースがあり1時間くらいかけてやります。そういえば、この間なんてトレーラーが乗り上げちゃったりね。でもいろいろな人が助けてくれる。ホースを入れる木箱を会員さんが作ってくれたり作業していると“ありがとね”と声をかけられるのが活動のエネルギー源です。！

花の力はすごいと思うんですよ。例えば、5分前に初めて会った人ともすぐ仲良くなれる。そして花は誰でも出来る、可愛くしたりいかようにもできるのが魅力。昔、キャディーをやって苦労もしたけどいろいろな人に助けられました。だから善意で、お花で返そうと思ってやっています。お花のおかげで私はいろいろな人と出会って話が出来、毎日が楽しいです。



とにかくパワフルさに圧倒されました。苦労を笑い飛ばす愉快なお話、大勢の人を巻き込む力、自宅前800メートルに渡る24カ所の花壇オアシスストリートは、体力勝負でもあります。地域の皆さんから只井さんはとても信頼されていると牧之原地区の花壇を手掛けている大勢の花友から繰り返し聞きました。恐るべし鉄人という称号を贈りたいです。

斎藤玉子

5. 吉田町 植田行江さん「ご先祖に感謝の気持ちで花壇や畑をやっています」



退職して3年前から他に用事がない限りここに来て作業をしています。夫のお父さんの土地ですが、誰もやれなくなり草ぼうぼうで荒れ放題、土もとても固かった。息子がユンボで土を開墾してくれました。畑で作物をつくり、花壇にも花木、花と様々な種類を挑戦中です。

オーレリアンの庭をみたりベニシアさんの本をみたり日々勉強。草取りを減らしたいので、ヒメイワダレ草を植えたり。芝生にも挑戦して鮮やかなグリーンを見ることができました。やりたいことがいっぱい。クレマチスを増やしてみたいし、自然と一体化したガーデンを目指したいとおもっています。先祖が残

してくれた土地、人類の歴史の営みの中のほんのひと時ですが携わってつなげたい。そしてそろそろ地域のボランティア活動にも参加してみたいです。



植田さん撮影 芝生

荒れ放題だった広～い土地の草を刈り雑木を伐り根っこを抜いて土を開墾した植田さん。私も少し経験があるので大変だったろうな～と思いましたが、植田さんはとても楽しそうにその過程やこれからやりたいことをたくさんお話してくれました。地域の活動にも参加したいと意欲的。私も頑張ろうという気持ちになりました。

中村道代

6. 静岡市 大石久雄さん「様々な活動で培った人脈を大切に」



40歳過ぎて静大の農学部先生にフィールドワークに誘われて自然とか環境とかに興味を持つようになりました。家の庭は出来るだけ自然のものを植えて育てたいと思っています。定年になった時に近くの公園が草ぼうぼうでなんとかしてくれと頼まれて、それで勉強しようと17年前にグリーンバンクの研修に参加しました。その高松神明原公園愛護会は現在19名で月1回活動しています。公園の花壇という外来種の苗が多いですが、ここでは

ノコンギクとか山野草など自然の花も植えています。谷津山友の会でも竹林整備、下草刈り、花の栽培など活動中。魅力あふれる静岡の中心部にある低山です。多くの方に来て欲しいと思っています。そして戦没学徒を忘れないため駿府城公園の「やすらぎの塔」復元を静岡市に求めるなどの活動をしています。様々な会で活動していると思うのは、培った人脈が他の会でも役に立つということ。そしてそろそろ後に引き継いでいかななくてはとも思っています。



大石さん撮影
タチツボスミシ

社会や自然に深い洞察力を持った大石さん、いつも穏やかな表情で話に引き込まれます。整然と整理された納屋の半分には作業スペースがあって、大石さんの日ごろの活動を覗き込むようでした。うちの庭は鳥さんが運んで植えたものばかりなんですよと笑う奥様も、相当にお花が好きと見受けました。案内頂いた高松神明原公園は、公園愛護会山本会長がグリーンバンクホームページに毎月会報誌をアップしています。会の活動を仲間に伝え記録を残すお手本です、是非ご覧下さい。斎藤玉子

7. 静岡市 山田幸子さん「畑や花を楽しむために移住しました」



定年後は広い土地で畑や好きな花壇をやりたいといろいろ探してここ葵区牧ヶ谷に決めました。1350坪あります。元はお茶畑で誰もやる人がいなくてお茶が背より高くなっていました。自分でお茶を刈り、根っこを抜いて土を開墾するのはさすがに業者さんに頼みました。花はずっと好きで前の家ではプランターでの花が中心でした。広い場所でやりたいと思ったのは薔薇がきっかけです。スパニッシュビューティーが好きです。とにかくずっと草取りが大変でしたが最近は草取りも楽しくなってきました。だんだんご近所の友達が増えていろんな人が声をかけてくれるようになりました。移住してからの人間関係どうなるかって少し心配したけどそんな必要はなかったです。主人は畑で作物づくり担当。花も良いけど収穫の喜びが一番良いですね。お昼は庭を一望できるデッキで食べるんですけど冬でも日差しが暖かくて幸せだなんて思います。(ごちそうさまです！)



とにかく広い！1350坪！9年前に越してきてその開墾の様子をご夫妻で笑いながら、素敵な花の写真を見ながら話してくれました。家の中には暖炉があり、リビングの大きな窓から畑や花壇を見渡せておしゃれなペンションみたい。子供たちや地域の活動にも興味があるそう。同じ学区に住む私は楽しみが増えました。

中村道代

8. 藤枝市 井村富枝さん「咲いてくれたらありがとう」



30年前に越してきて最初は庭師さんが和風庭園を造ってくれました。10年前に土地を買い足して。まったくの荒地だったのでつるはしやシャベルで少しずつ開墾しました。図書館で本を借りて薔薇とか試してもずっとダメでした。特に土ですね。本に書いてあるようにやっているつもりで実はやっていないんですよ。腐葉土、堆肥を土に漉き込んで5年。土の表面を削ってもしょろがないんだと。最近は動画で自然農の方法とかよく見ます。庭の樺や紅葉の落ち葉も大切に使うようになりました。花は育てる過程が楽しいのだと思います。そして、あれやこれや工夫してやってみて、咲いてくれなければ「どうしたの」って。咲いてくれたら「ありがとう！」って。花と会話しながらやっています。



しっとりとしたセンスの良い植栽のガーデン、大好きな薔薇は島田バラ園のボランティアしながら技術を学び、どの花も慈しんで育てているのが伝わります。常にこういう風にしようというチャレンジャーでもあります。今の挑戦は土壌菌の勉強をして生かすことだそうです。バドミントンやオカリナなど多趣味でありながら、控えめな人柄がいっそう魅力ですね。

斎藤玉子